

都留市立図書館の読書週間行事として恒例、「谷の町・史の里」展が、今年も開催されました。「まちの記録と記憶」をテーマに、今回もフィールド・ミュージアム部門との共催により実施されました。

なお「谷の町・史の里 図書館のあゆみ展」(2006)、「谷の町・史の里 まちの記憶 写真展」(2007)については、『地域交流センター通信』11号、13号を参照してください。

シリーズ第3回の今回は、市立図書館の「地域資料等電子化事業」による『デジタル広報つる(CD・ROM版)』完成記念として企画されました。展示は、「電子化事業の紹介と、広報を使った企画としてA展示『広報つる』と蔵書でふり返るまちの歩み(1979~2001)」「フィールド・ミュージアム部門が昨年完成させたデータベース『奥隆行写真コレクション』を使ったB展示(写真とベストセラーでたどるまちの歩み(1947~1978))」の二部形式で構成されました。閲覧機を利用した展示卓には年代順に広報の表紙や記事のパネル、各時期に読まれた蔵書が並べられ、書架側面の展示架には写真と当時のベストセラーが初版本で展示されました。

期間中、おおぜいの市民の皆さんが来館し、展示本を手にとり読んでいたり、なつかしい写真の前で立ち止まる光景が多く見られたそうです。

公共図書館には、資料の貸出サービスや学習空間などの場を提供する機能以外に、地域固有の資料を収集して提供、保存する役割があります。そして、行政からのお知らせや情報公開、市民活動の様子などを掲載する自治体の広報誌は、後世に残すべき大切な資料(記録)です。これを永く保存し、またインターネット等で広く活用するため、都留市では「地域資料等電子化事業(平成15~19年度)」を行い、約23年分(1979

フィールド・ミュージアム部門

市立図書館との連携事業の報告

谷の町・史の里  
まちの記録・記憶展

~まちの歩みと私たちの読んだ本~

2008年10月28日~11月9日



電子化事業の紹介とA展示(1979~2001)  
\*電子化事業の概要を紹介。また、電子化された広報から、市役所駐車場の朝市(79)、かいじ国体(86)、市民待望の市立病院の完成やE電の富士急線乗り入れ(90)、未曾有の豪雪(98)ほか、市民の記憶に深く残る表紙や記事と、当時読まれた『忍びのトットちゃん』(81)、『サラダ記念日』(84)、『マディソン郡の橋』(94)、『ハリー・ポッターと賢者の石』(99)、ほかを展示。

B展示(1947~1978)から、子どもたち『あたらしい憲法のはなし』(1947)  
\*写真とベストセラー、『アンネの日記』、『君の名は』(53)、『にあんちゃん』(59)、『愛と死をみつめて』(64)、『ルーツ』(77)、ほかを展示。上記には——終戦から2年、寺の石段であそぶ仲良し。この笑顔の子どもたちがやがて新しい時代を担ってゆく。『あたらしい憲法のはなし』は、1947(昭22)年公布の日本国憲法を解説するため文部省が中学1年生に配布した教科書。「・・・よその国となかよくして、世界中の国が、よい友だちになって・・・あのおそろしい戦争が、二度と起こらないように、また起こさないようにいたしましょう。」(同書、六、戦争の放棄より)——との解説が添えられた。

年(2001年6月)の『広報つる』を電子データ化しました。このデータ作成作業は、市立図書館協力員である小池利成さん、野口政夫さんの手によって行われました。図書館活動への市民参加という試みは近年各地で行われていますが、このような本格的な例はめずらしいでしょう。また、本来図書館の評価は、貸出冊数等、数値目標の達成率をみるだけでなく、事業や文化行事の実績もあわせ、総合的になされるべきものです。都留市立図書館が事業の成果をいかに、資料展示など、読書推進や図書館の利用促進につながる活動を続けていることは、高く評価されてよいでしょう。

図書館が記録や読書によって人びとのところをつなぐ交流の場であろうとするように、フィールド・ミュージアムもまた、人・町・自然をつなぐ取り組みとして、市立図書館との連携を重ねてゆきたいと思えます。